

【巻頭グラビア説明】

世界の鏡から 地球の顔を見る

太陽観測衛星「ひので」(表ページ)

「ひので」はM-Vロケットによって2006年に打上げられた太陽観測衛星。可視光、極端紫外線、X線の三つの望遠鏡を搭載し、太陽大気で発生する磁気活動や加熱現象の謎を解明することを目指している。可視光望遠鏡は0.2-0.3秒角の高い解像度と精密な偏光磁場測定を実現し、太陽物理学研究に大きな進展をもたらしている。

大学VLBI連携観測網 (Japanese VLBI Network=JVN) ② (裏ページ)

国立天文台水沢VLBI観測所 VERA水沢観測局 20 m電波望遠鏡

岩手県奥州市水沢区の国立天文台水沢のキャンパス内にある。VERAプロジェクトの4台の望遠鏡の一つとして、2001年に完成した。ほかのVERA入来、小笠原、石垣島の3局と同時にVLBI観測を行うと、直径2,300 kmの望遠鏡と同じ性能を発揮。世界に例がない2ビームVLBIシステムにより、銀河系内の水メーザー源や一酸化ケイ素メーザー源などの距離と運動を高精度で計測し、銀河系の真の姿を明らかにする。キャンパス内には、1992年に完成して国内VLBI網の共同利用などに供された10 m電波望遠鏡も稼働している。夜間監視照明には低圧ナトリウムランプを使い光の環境を守る(写真左下)。またキャンパス内には、VERA4局を運用するアレーオペレーションセンター(AOC)がある(写真右下)。